働きがいを感じ なにより夢を持って

豊かな自然資源に囲まれた田野畑村の主な産業は農林水産業。高齢化や担い手対策として集落営農や養殖ワカメ加工の協業化の推進など、総合的な地域産業の振興と維持を図っています。

キーワード【産業】industry

村づくり基本方針のひとつに、資源を生かした産業振興を掲げる田野畑村。根幹となるのが、海や大地という自然資源を活用する農林水産業です。

農業の場合は、村特有の気象［ヤマセ］と深いかかわりがあります。独自ブランド「たのはた牛乳」を確立した酪農は、ヤマセ特有の冷涼な気候に適し、かつ表土を守る豊富な草資源がその発展を支えてきました。畑作においても、寒い場所でも育つダイコンが主力品目として栽培されてきました。この気候の特性の生かし方が、農業発展の要となっていくでしょう。

酪農では草地の適正な更新をはじめ、産学官の連携による粗飼料生産技術体系の普及に努めるとともに、意欲ある生産者の事業拡大を目指していきます。さらに鴨や養鶏業を担う第三セクターとも連携し、生産・加工体制の強化も図っていかなくてはなりません。

一方の畑作では、地域品目の確立が大テーマ。市場での評価が高いダイコンを主体に、ブロッコリーやホウレンソウなどを取り入れた経営を奨励。集落営農による地域ぐるみ農業の推進と同時に、近年増加傾向にある異分野からの農業参入も研修などを実施して支援する取り組みが始まっています。

水産業を特徴づけるものは、ワカメやコンブなどの豊かな磯根資源とサケを主体とした定置網漁業。品質の高さは市場からも高い評価を得ていますが、加工業者が少ないがゆえ水揚げされる水産物の大半が村外に二次出荷されていきます。加工部門の拡大は「田野畑ブランド」として水産品の付加価値を高めるための急務。また安定した生産・加工ラインを作ることにより、新たな雇用創出のチャンスも生まれます。村では漁業関係者との連携を図りながら、ブランド開発の仕組みづくりをしていく考えです。さらには「サッパ船アドベンチャーズ」などの観光事業との融合を通し、水産業全体の活性化をも目指しています。

農業や水産業に比べ、補完的な印象の林業。しかし海と山とのかかわりがクローズアップされるにつけ、環境面から注目が集まるようになっています。また生活スタイルの変化に伴い、石油資源に代わる「薪」へのニーズも高まってきました。これからは、村の豊富な森林資源の保全を進める中から、林産物の需要拡大への可能性も広がっていくことでしょう。

産業振興の大前提である「資源の活用」。それは人材育成にもあてはまります。生産者への細やかな支援、そして将来の後継者である子どもたちへの啓発活動。働きがいを感じ、なにより「夢」を持って農林水産業を語れる村になるように…。強い意志を胸に、田野畑は動き出しています。

水産業では、つくり育てる漁業の推進と安定的な水産物の供給、水産加工業者の育成と担い手の確保、そして操業の安全確保と生活環境の向上が、魅力ある水産業の振興の鍵に。各地から注目を浴びる観光関連事業との連携促進も大きなテーマです

森林の環境保全は国や県も重要課題に据えており、石油に代わる資源としての可能性も注目されています。木材供給をはじめ、国土保全や水資源のかん養、憩いの場の提供などを国や県と連携を図りながら進め、森林保全と間伐材の有効利用を図ります

広域との連携とともに、ダイコンやホウレンソウなど適地適作による品質の高い農産物の生産を目指します。同時に新しい流通ルートの開拓、そして低コスト生産と経営感覚のある農業者の育成にも努め、農業所得向上を図っていきます

恵まれた天然資源・自然環境の中で展開される畜産酪農業。今後はさらに「安全・安心・安定」した畜産物の生産と供給に努め、資源循環と環境保全に配慮し、経営能力の高い農業者の育成と農業所得の向上を目指していくのが、施策の基本的な考え方になっています